

自己評価票

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	基本理念として①安心して暮らせる生活②笑顔のある生活③役割りのある生活(あなた出番です)④関係作りのある生活⑤個性豊かな生活	
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	取り組んでいる。	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	取り組んでいる。	
2. 地域との支えあい			
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣近所、散歩道、隣での定期受診等で出会った方と気軽に声を掛け合うようにしている。今では多くの方々と顔見知りとなり、畑の果物、野菜等をいただくことが多くなった。	
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域運営会議の開催、保育園の交流や地域の方の訪問、軽い挨拶の交換、散歩道の白衣観音祭りへの参加等、少しずつであるが地域に根ざすことに努めている。	○ 隣近所との関係をもう少し密にしていきたい。防災等の心配は今現在の夜勤者一人体制ではとても不安が大きい。隣近所の方の応援があれば、かなり違う。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	○	<p>記録の仕方、計画書のまとめ方がまだしっかりとされていない。今後の取り組みとして、判りやすい詳細な内容にまとめていく必要がある。取組んでいきたい。</p>
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	○	<p>今後もしろんな意見を活かして取組んでいきたい。</p>
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	○	<p>今年度、初めてこの村の住民が利用者となり、なのはなへ入居時は、認知症の進みがかかりで、自宅介護の見えにくい部分が見えた感があった。身近な所として村の認知症介護教室等への参加を希望したい旨を村に伝えていきたい。</p>
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	○	<p>今後、必要となってくるので機会を作り参加していきたい。</p>
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	○	<p>勉強会の取り組みを行ってほしい。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	なのはなの生活がどのように行われているか家族に詳細を説明している。利用者には様子を確認し逆に不安が多く感じられる場合は説明ではなく気持ちのリラックスを重視し、不安を少しでも解消できるような対応に心掛けている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	時々少しの時間であるが、個別で話が出る時間をもうけ、聞ける機会を作っている。同時に話せる関係作りを職員が心がけている。家族とも来訪の折などに利用者の不安、思いを知らせてもらい、ケアに生かしている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	互いに連携という面も加味して、来訪の折やお便りにより利用者 の様子、変化、金銭に関わる医療費、娯楽費、又、職員の移動等について、詳細のお知らせをその度毎にしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談箱を玄関において、家族の意見の反映としているが、中々起動しない。直接に家族と対面で話が出る時に家族の不安、不満等を聞くことに心がけている。この方が話がしやすいようである。このことは運営に反映させている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	部会は1ヶ月／2Hで中々互いの意見交換が出来ないので、なのはな独自でミニ部会を平均週／2～3回行うようにしている。責任者が常に中心でなく職員主体としている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	上記同様、意見反映に心掛けている。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2005年開所以来、移動、退職者は5名。その度毎に管理者から新人職員へ利用者の個々のケア、対応について詳細を説明、そして全体の職員間の連携の建て直しをしていく。利用者の不安、混乱を最小限に防ぐ配慮に努めている。		
5. 人材の育成と支援			
19 ○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営側からの育成教育の計画は多く、管理者から職員へその説明を行い個々の時間配慮をしながら勉強会参加の進めを行い、職員も務めている。	○	今以上により多くの研修参加へ取り組みをしていきたい。
20 ○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	隣、デイケア(地域の方)との交流は多く、行き来も近い為、運動会参加、各演奏会等の参加がある。月/1回は必ず合同演奏会参加。年1回の健康祭りもある。しかし、勉強会には至っていない。	○	地域密着として力不足あり。地域ネットワーク作りの取り組みが必要。今のところは利用者の交流で留まっている所を一步進めて地域の中へ職員交流活動を進めていきたい。
21 ○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	管理者は上記に記するように部会の回数を多くすること、全体の様子がしっくりいっていないと感じた時は続けて時間を作り、職員の不安解消に務める。そのことが利用者へのケアに通じている。他、個別で面接を行うこともあるし、相談にこられる時は時間を作り話し合いを個別で行う。このことについては運営側に報告を必ず行う。	○	大切なことなので運営側と常に情報交換を怠らないように互いの連携を今後も続けていきたい。
22 ○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	運営側に管理者から職場状況をいつも知らせている。職員の身分保障等についても、不安や不満があることを相談していくことで時間を作り、話に乗ってくれている。プラス方向に行くことで、職員間の連携、仕事意欲にも変化が出てきている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	開所時は1, 2週間様子を見ながら家族とも情報交換し、その間に本人にもなのはな生活の感想を聞きながら本人の受け入れる体制が出来ているかの判断をするが、本人にもこの生活の継続を聞くことをしている。拒否の理由も必ず聞くことをしている。	○	認知症介護の現場ということから利用者に対して「忘れることや理解が不足」と決め付けない態度が業者側には常に大切。不安、混乱があることは誰でも同じであることから人への真摯な対応、基本姿勢をこれからも忘れずにしていきたい。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時、家族が持っている不安やこちらに求めたいこと等を時間を作り、話しを聞くことをしている。そして家族の思いを受け止める努力をしている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記を進めていく中、他のサービスについては考慮しない。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	上記23項目と同様の対応と同時に、不安の多い家族の方には通所デイという形をとっている。2, 3日通ってもらい、様子を確認。ここでの生活に馴染めていけそうかどうか。不安、混乱があまりにも多い場合はどのようにすべきか家族等と相談、という方向でいる。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の出来る力を発揮できる場面作りを多く作り、互いに助け合い協力し合うことで関係作りに努めてきた。時代を生きてきた人と受け止めていくことで多くのことを学び、支えあう関係を築けてきた。		

高齢者グループホームなのはな

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	いつも家族と連携で利用者支援に努めている。毎日の変化等については来訪の度に、又、急な伝達が必要な時は早々に電話連絡を取って情報等の共有に努めている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	職員は利用者と家族のこれまでの経過を理解し、来訪の度に情報の共有をし、互いの関係がよりよい関係として築いていけるように支援に努めている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	開所時、長期入院で退居された利用者との交流を今現在も行っている。3、4ヶ月に1回だが、施設入所されたその場所へ職員同行で出向き、関係を継続する支援を行っている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士が関わり合える場面作りを多く作り支援に努めている。不安、混乱が出にくい程度に席替えを行う場合もあり、リフレッシュを心がけ、孤立せず、より良い関係が出来るように支援を行っている。		
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	開所時、長期入院で退居された利用者との交流を今現在も行っている。3、4ヶ月に1回だが、施設入所されたその場所へ職員同行で出向き、関係を継続する支援を行っている。（30番と同）		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者と話す機会を作り、希望、意向の把握に努めている。家族にはこの情報を伝え共有し合い、利用者の思いを大切にしていくことで今後の方向付けとしている。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	開所時に家族からこれまでの経過、生活歴の聞き取りをする。	○ 生活歴等のまとめ方が不足あり。もう少し詳細なまとめ方にしていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	毎日の介護記録、部会、ミニ部会等で職員の意見交換、連携等で申し送りあい、総合的に全体把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者がより良い暮らしをされていく為に利用者の生活課題は基より家族の情報、意見、アイデアを反映した介護計画作成に努めている。常に変化ある度に家族と意見交換、連携することに努めている。	○ 介護計画書をもう少し充実した詳細な計画書にしていきたい。記入の工夫、まとめの工夫を。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画書は3ヶ月ごとに見直しをしている(変化がなくても、3ヶ月ごとに)他、上記と同。	○ 実践が先に進み、計画書の作成が後ということが多。計画書作成の取り組みを早めに取り組む姿勢をつくっていきたい。

高齢者グループホームなのはな

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録、職員の連携申し送り、そして久々の家族の来訪による情報も大きな支援となる。これらをまとめて介護計画書の見直しとしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	なのはなの例として、家族がこの地(長野県)を離れ、知人が誰もいないという状況の中、利用者の希望、家族の要望を確認し、運営側、管理者、職員での意見交換、話し合いをすることで支援に努めてきた。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアレクリエーションや保育園との交流、消防署から防火訓練協力への参加等、地域からの協力支援が行われている。	○	地域推進会議は行われてはいるが身近な区の地域との交流が中々進まず。こちらからも働きかけていきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	今少しずつであるが情報交換を行っている所である。地域密着型として、利用者選択時、この地の利用者が優先されることを考慮すると、地域事業者との話し合いや情報の交換は今後いっそう必要となっていくことである。	○	地域のケアマネジャーとの話し合いはあるが、サービス事業者との交流がないので交流を深めることに努めたい。情報支援に活用したい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	していない。どのように活用すべきか勉強不足。		

高齢者グループホームなのはな

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		松本協立HPとの連携がある。
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		ターミナルについての話し合いをおこなってきている。利用者の希望、家族の思いが大切で、なのはなでの未経験の終末期を一人迎える覚悟は始めている。家族の希望が大。職員との話し合いも出来ていて、方針の共有はされている。
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		ターミナルについての話し合いをおこなってきている。利用者の希望、家族の思いが大切で、なのはなでの未経験の終末期を一人迎える覚悟は始めている。家族の希望が大。職員との話し合いも出来ていて、方針の共有はされている。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49 ○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	その後の関係作りも継続できる配慮を行って いる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	問題行動、徘徊という言葉を個人記録等から 排除していくように努めている。対応につい ても個人の自尊心を潰さない言葉掛けの努力 をしている。	○	対応の中で、どうしても出てしまう否定の言 葉がある。中々難しいことであるが、申し送 り、連携し合い、言葉が出ないように努めて いきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよ うに支援をしている	何かをする時ごとに、必ず利用者の意見を聞 くことを心がけている。問いかけをしてい くと利用者といつもキャッチボールをする ことに努めている。言葉を出せる場面作りが 大切。		
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	職員の決まりや都合優先でなく、利用者優先 に努めてきた。全体で行うレクリエーションで は無理強いないく、参加への希望があるか、話 しを聞き確認。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	整髪料、顔クリーム等の購入、衣服の好みの 購入等の買物の同行を。美容院は家族支援で 好みの店に行かれる方がいる。なのはな専属 の散髪屋にはひとり一人の好ましい髪形にな るようにお願いをしている。		

高齢者グループホームなのはな

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

高齢者グループホームなのはな

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60 ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者には家族から預かり金があることが話してあり、外食時や個々の買物時に預かり金から出していることをその度に説明をしている。自ら聞かれる方もいる。「お金。あるかい？」預かり財布をレジで本人に使ってもらった場面もある。		
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	週末は職員となのはな生活用品の買物に2名の方が外出。楽しみの一つになっている。週/1回は近くをドライブすることを行っている。散歩は天気によければ、ほぼ毎日往復40分くらいの所を歩いている(5名)。残りの方は隣の安全道をゆっくりと往復。		
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	個々の好ましい外食に少し遠出したり、全員で大型車、小型車2台でかなり遠くまで外食遠足(往復2H)を年2回したり、と季節を感じながら外出を楽しんでいる(店は貸切で)。家族とも外出支援や全体で家族も一緒に外出することもある。		
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	進んで行っている。家族との絆を大切に。家族にも利用者の様子を伝え、連携で支援を行っている。		
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	開所時から来訪をこちらから多くお願いしていることもあり、家族の方等がいつも気軽にふっと出かけてこられる姿があり、自然なのはな生活が見られることで利用者はもちろん職員も嬉しい思いがある。		
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	虐待の話は時折しており、身体虐待、言葉による虐待もあることを話している。		

高齢者グループホームなのはな

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵を掛けない開放されたなのはな生活を職員に理解してもらっている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	夜勤者は全員が日中と兼務であるので利用者の様子を理解し把握しやすい状態を作っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	ひとり一人の好ましいものもあるので危険重視でなく、気をつけていくことに努めている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	個々の利用者の状態に応じて転倒、窒息、誤薬のないよう、話し合い申し送りをし、連携で対応に努めている。防災訓練については利用者も一緒に行っている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	ほぼ全員の職員に救急対応訓練の勉強会にでももらっている。急変時等の対応もあわせて動くよう指導している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	地域運営会議の中で話し合いをしている最中で、地域と一緒に防災訓練がまだ出来上がっていないのが現状である。区の地域としてもまだ未開でこれからであるとのこと。今後、なのはなもこの中に一緒に参加をお願いしているところである。	○	今後、しっかりと築いていかなければならない課題なので、区の地域と連携をさらに密にしていきたい。

高齢者グループホームなのはな

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72 ○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	利用者への対応としてはゆっくりと見守りどこで変化に対しての対応をしていくかであるが、これも家族との連携で必ず話し合いをし、互いに共有することで一緒に見守りをお願いしてもらっている。家族との統一した共有のケアで抑圧感のない自然な対応に努めている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	利用者への対応としてはゆっくりと見守りどこで変化に対しての対応をしていくかであるが、これも家族との連携で必ず話し合いをし、互いに共有することで一緒に見守りをお願いしてもらっている。家族との統一した共有のケアで抑圧感のない自然な対応に努めている。		
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	日頃の部会、ミニ部会ごとに薬の内服の内容に変化があれば、伝達申し送りをし、職員全体が薬の状態を理解し、確認しあっている。	○	担当係があるのでいつも薬の確認をしていくことで問題のないように配慮しているが、口に入る大事なものであるので怠らずこれからも確認に努めたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	取り組んでいる。日常生活に現れやすい状態で、不穏、混乱が大きく出てくる方は特に排泄表を個別で作り、様子観察を行っている。飲料も勧めながら個々で好みの飲みやすい物も出しながら状態観察を行っている。体操は全員が毎日参加されている。他、ほぼ毎日の散歩参加。		
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	口腔衛生は毎食後、行っている。4名の方は声掛けをすることでホールで支援。1名の方は居室で口漱ぎを（義歯なし）。夜は就寝前、航空衛生後に職員が全体の汚れを確認し4名の方は、なのはなで預かっている。		
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の摂取状態を職員間で確認、申し送りしながら利用者ひとり一人の様子確認をし合っている。状態に合わせて、支援に努めている。		

高齢者グループホームなのはな

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	インフルエンザ予防接種は利用者、職員の全員が行っている。ノロウイルスは2007年の1月に利用者3名、職員1名が感染。感染の予防としては外出から帰る毎、うがい、手洗い。利用者、職員、来訪者へ実践。感染症対応は訪看と連携で行っている。	○	2007年の感染に関わった職員が2名のみなので再度、話し合いを行っている。今後も季節毎に予防、対応について職員間の話し合い連携に努めていきたい。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	毎日使用の台所用品の衛生管理、布巾、まな板の消毒等に努めている。食材管理も連携で行っている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	花を増やし草取りも出来る力のある利用者の協力を得て、環境の保持を。玄関入り口の所にはイスを置き、人の気配を感じやすい様子を見せる工夫をしている。夏場等は網戸にして、戸口の開放をしている。玄関入っての一つ目の戸口は格子で様子が判りやすく人の出入りも判りやすい。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	各共用の場は、居心地の良い空間になるよう配慮。トイレにおいては、共用で互いに混乱の起きやすい方々の配慮も行ってきている。		
82	○居心地のよい共用空間づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのテーブル以外にもテーブルを設けゆったりとマイペースで過ごせる空間作りをしている。他、暖かい季節はサンルームの活用、職員の事務所も独り空間の場所に提供している。		

高齢者グループホームなのはな

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	○居心地のよい共用空間づくり	家族との連携を行っている。本人の好みも活かしている。居室整理、清潔の保持は職員がさりげなく支えている。家族にもお願いしている所もある。		
	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れた者や好みの物を活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			
84	○居心地のよい共用空間づくり	季節に合わせて、寒暖調整を行っている。空気の入替えも寒暖にあわせ、行っている。		
	気になるにおいや空気よどみがないよう換気調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている			
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	床全体の段差をなくし全体の壁には手すりを設置することでつかまりやすく、転倒の防止策を行っている。トイレの設置も所々に置かれ(6箇所)、9名の方が使いやすい設定とされている。中にも手すりが設けられ、危険の回避がされている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	個々の利用者の力に合わせた寄り添いを目指し、毎日の生活が生き生きとした生活を送れるように努めている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	ホールベランダには低めの干し場があり、気をつけながら干せる配慮がされている。庭や畑には利用者と一緒に植える花々野菜等があり力に合わせて動ける方、眺める方、出来た野菜を一緒に食べてくれる方、そして水遣りをひきうけてくれる方と役割は多い。サンルームも同じに活用している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

なのはなの理念に、安心して暮らせる生活、笑顔のある生活、役割のある生活(あなた出番です)、関係作りのある生活、個性豊かな生活の5つの生活がある。その中に、目標を持った生活支援、毎日の継続支援が続行されている。ごく普通に生活の中でやっていることをやっていく毎日。それぞれの朝。朝、起きて顔を洗い、ホールに集まり、朝の挨拶が始まる。「おはよう!」。朝食の準備は手伝える人がやり、片付けは声掛け合い、洗い物は「手伝うわ」と自発的にやる姿が。茶碗拭きはテーブルの所で数名の方が待機して頼むわけでもなく自発的に拭いてくれる。朝はいつもこんなふうに来てくる。ホールのあちらこちらで個性豊かな花々が咲き、賑やかななのはなになる。そして、ひとり一人、自分のやりたいことやれることに入っていく。__散歩開始。山形村のリンゴ並木道(こちらでそう呼んでいる)を歩いていくと、白衣観音様が見えてくる。ここでいつも休憩を取り(休憩所を村の方が作ってくれた)、又残りの半分の道を歩いていく。これが毎日の遠出の散歩コースで、往復40分位で完歩。雨、雪がなければ、観音様にお参りすることを目標に今まで四季毎日のように散歩を続けてきた。メンバーは季節により体に負担がないように声をかけ、参加してもらっている。遠出なので車椅子を使う人もいる。頑張っている方はよく完歩されている。体も丈夫になりました。決して無理強いせず、行きたいという思いのある方がいくことがベスト。帰ってくると、ホット一息。清々しい顔が広がる。なのはなは、ひとり一人の方が自分の花を自分らしく咲かせている。認知症という枠から離れ、長い道のりを歩いてきたひとり一人の生き方として紐解くことで人生の重さを知り、温かさを知ることが出来た。私達職員はこれからも脇役スタッフとして温かな支援を続けていきたい。